



2022年4月25日

各 位

会 社 名 住友ベークライト株式会社
代表者名 代表取締役社長 藤原 一彦
(コード番号 4203 東証プライム市場)
問合せ先 総務本部 コーポレート・コミュニ
ケーション部長 植田 毅
(TEL 03-5462-4165)

連結業績予想の修正、配当予想の修正 および個別業績の予想に関するお知らせ

直近の業績動向を踏まえ、2021年10月27日に公表した2022年3月期通期連結業績予想を修正するとともに配当予想を修正いたします。

また、個別業績の予想値は開示しておりませんでした。前期実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

(1) 2022年3月期通期連結業績予想の修正(2021年4月1日～2022年3月31日) (単位:百万円)

	売上収益	事業利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当たり 当期利益
前回発表予想(A)	250,000	25,000	17,600	374.02 円 銭
今回修正予想(B)	263,000	26,200	18,000	382.52 円 銭
増減額(B-A)	13,000	1,200	400	
増減率 (%)	5.2	4.8	2.3	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期通期)	209,002	16,642	13,198	280.46 円 銭

(注) 「事業利益」は、「売上収益」から「売上原価」、「販管費及び一般管理費」を控除して算出しております。

(2) 連結業績予想の修正理由

半導体関連材料は、デジタル化の加速とそれに伴うインフラ整備の拡充などにより、様々な分野で世界的に需要が増加していることや、車載用途の拡販が寄与したことにより、販売が増加しました。また、高機能プラスチックも、自動車用途向けおよび電子部品向け販売が堅調に推移しました。この結果、売上収益、利益ともに前回予想を上回る見通しとなりました。

なお、税引前利益については、2021年10月27日に公表した通期連結業績予想では開示しておりませんでした。2022年3月期通期実績は25,600百万円となる見通しで、前期実績16,139百万円に対して9,461百万円の増加(58.6%増加)となり前期実績を30%以上上回る見込みとなりました。これは主に、半導体関連材料および高機能プラスチックにおいて、対前期で販売が大幅に増加したことによるものです。

2. 配当予想の修正について

(1) 2022年3月期配当予想

	年間配当金		
	第2四半期末 (円 銭)	期末 (円 銭)	年間合計 (円 銭)
前回発表予想		50.00	100.00
今回修正予想		60.00	110.00
当期実績	50.00		
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期通期)	30.00	45.00	75.00

(2) 配当予想の修正理由

当社は、積極的に企業価値の向上をはかり、株主への利益還元を経営の最重要課題のひとつと考えております。利益配分につきましては、研究開発や設備投資およびM&Aといった将来の事業展開のために必要な内部留保とのバランスを勘案し、連結業績に応じた安定的な配当の継続を実施していきたいと考えております。

上記「1. 連結業績予想の修正について」のとおり2022年3月期通期の連結業績予想を上方修正することから、2022年3月期の期末配当予想につきまして、当初予想の1株につき50円から10円増額の60円に修正いたします。

3. 個別業績の予想について

(1) 2022年3月期通期個別業績の予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	89,968	10,117	10,864	△ 11,702	△ 248.69 円 銭
当期業績予想(B)	99,737	10,515	11,507	7,627	162.08 円 銭
増減額(B-A)	9,769	398	643	19,329	
増減率 (%)	10.9	3.9	5.9	—	

(2) 個別業績予想の理由

売上高、営業利益、経常利益につきましては、半導体関連材料の販売増加に加えて、高機能プラスチックにおいても自動車市場の回復が進んだことに伴い販売が堅調に推移した結果、前期実績を上回る見通しです。また、前期に関係会社株式評価損20,030百万円を計上しておりましたが、当期は大きな影響を与える特別損失が発生しなかったことから、当期純利益は前期実績を大きく上回る予想となりました。

以 上